

第2回 公共施設あり方検討市民会議（概要）

- ◆開催日時 平成26年1月14日（火）18時30分～20時20分
- ◆開催場所 舞鶴市役所 大会議室
- ◆委員 [出席] 尾上座長ほか6名
[欠席] 2名
- ◆傍聴者 7名
- ◆報道機関 3社
- ◆次第
 1. 開会
 2. 第1回会議の内容と第2回会議の概要
 3. 議事
 - ①施設評価方法のポイント及び評価結果
 - ②アンケート調査の結果
 - ③評価結果のまとめと見直しの方向付け
 - ◆集会施設（公民館等） ◆集会施設（コミュニティセンター）
 - ◆文化施設（文化ホール） ◆図書館 ◆博物館等
 4. 閉会

◆第2回公共施設あり方検討市民会議要旨

第2回会議では、市が保有する139施設を、6つの評価軸と20の着眼点により評価した「施設評価結果」について市より説明するとともに、「市民アンケート調査結果」について報告した。

さらに、「施設評価結果」、「市民アンケート調査結果」を踏まえ、用途別に公共施設の現状と見直しの方向性をまとめた「公共施設の実態と見直しの方向付け」について市より説明した。なお、「公共施設の実態と見直しの方向付け」は、本会議委員の意見を踏まえ策定する予定である「公共施設再生基本計画」の主要な内容となる部分である。

これらの説明に基づき、主に「公共施設の実態と見直しの方向付け」の部分について、委員による意見交換を行った。

今回出された意見を踏まえ、引き続き「公共施設の実態と見直しの方向付け」の整理を続け、次回の会議につなげる。

◆議事（市からの説明）

①施設評価方法のポイント及び評価結果

舞鶴市が保有する139の施設について、全施設を一律の基準（6つの評価軸（※1）と相当する20の着眼点（※2））により評価を行った。

なお、ここでの評価は施設の設置目的や施策方針等を考慮していないため、この評価のみをもって施設の存廃等が決定されるものではない。

（※1）6つの評価軸・・・建物状況、防災状況、拠点性状況、運営状況、コスト状況、利用状況

（※2）20の着眼点・・・築年数、耐震性、立地特性、稼働時間、利用者数など

6つの評価軸のうち、最も基本的な情報である「建物状況」及び「利用状況」の2軸に着目した評価結果に基づき、公共施設の見直しの方向付けを行う。

②アンケート調査の結果

第1回会議における中間報告からの変更点としては、設問（7）の集計手法に一部不適切と考えられる部分があったため修正した。また、中間報告においては未整理であった自由記述について取りまとめ掲載した。また、参考資料として性別、世代別、地域別にクロス集計を行った。その結果、全体集計結果と同様の傾向となった。

公共施設の量や設備に関する意識については、現在の公共施設の量や設備に関しては満足されている方が多い傾向であった一方で、使わないので分からないと回答されておられる方の割合も高かった。

今後の公共施設のあり方については、高い割合の市民（約74%）が、「利用率が低い施設等については、必ずしも東西の両方で存続させていく必要はない」と回答している。また、廃止以外で施設を減らす方法としては、「同じ機能で市内に複数ある施設を統合」、「空き部屋が多く利用率が低い施設に他の施設を移転・集約」すべきという回答が、上位にあげられた。

今後の公共施設の利用料のあり方については、「必要であれば、利用者の負担を増やすことはやむを得ない」という回答が最も高い割合となった。

なお、本調査はあくまで公共施設に係る市民の意識を調査したものであり、これを持って施設の存廃等が決定されるものではない。

③評価結果のまとめと見直しの方向付け（素案）

・集会施設（公民館等）

公民館等は、生涯学習や地域コミュニティ形成の核となる重要な役割を担った施設であり、現機能を維持していくこととする。ただし、利用効率の低い施設については、利用率を高めるよう取り組む。

・集会施設（コミュニティセンター）

コミュニティセンターは市民活動や市民交流の促進に寄与しているが、施設数が少なくない一方で、利用率が低い施設も多く、機能集約や廃止などにより総量削減を図る必要がある。

・文化施設（文化ホール）

本市には、人口規模に対して比較的大規模なホールが2つあるが、利用（稼働）状況は低い傾向にあることより、最適な規模も含めた施設のあり方について見直しを図る必要がある。

・図書館

建物状況、利用状況とも概ね良好であるが、東西に2つあることから、それぞれを特色化すべきなどの市民の声もあり、将来的には、最適なあり方を検討する必要がある。

・博物館等

博物館施設は、本市のまちの歴史を後世に継承するほか、主要な観光施設にも位置づけられており、交流人口の増加につなげる重要な施設であることから、現機能を維持し、さらに利用者の増加に向けた取組を推進する。

◆質疑・応答及び意見交換（○…質問 ⇒…回答 ◎…意見）

【市民会議の進め方について】

◎本日は2名の委員が欠席されているが、出来るだけ欠席者が少ない状況で会議が開催されるよう調整をお願いしたい。（委員）

○本会議は統廃合を決定する会議ではなく、参考とする意見を述べる会議と考えてよいか。（委員）

⇒本会議はあくまで、市民や学識経験者の幅広い意見を聞く場である。公共施設マネジメント白書の中で示した方向性では、施設の総量削減というものがあるが、本会議で具体的に統廃合を決定するものではない。（事務局）

【施設評価結果について】

◎建物状況評価について、防災の観点から耐震等について評価しているが、崖に近接している、液状化が起りやすい地域に立地しているといったことも含めて検討する必要があるのではないかと考える。（委員）

○建物状況と利用状況の2軸評価において、グループ分けをする際の境界は、平均点ではなく、絶対的な数字の方がよいのではないかと。（副座長）

⇒今回の資料を作る際にも、絶対的な数字を採用すべきか議論があった。今回は優先度を判断するための境界として平均点を採用することとしている。

（事務局）

【市民アンケート結果について】

○アンケートの回収率が約30%ということであるが、さらに回収率が高まれば、回答結果の傾向に変化がみられるのか。（委員）

⇒他の統計調査から、さらに回収率が高まったとしても、回答結果の傾向に変化はみられないと考えられる。(事務局)

○アンケート実施の際に、地区別(西、東、中、加佐、大浦)に、統計的信頼性が担保される回答数を確保するため、アンケート送付数を地区ごとに調整していると聞いたが、そうであれば、設問(7)の「減らすべき施設」については、偏りのある数になっているのではないかと考える。(委員)

⇒偏りが出ている可能性もあるので、再度確認する。(事務局)

◎議論を進めていく際には、アンケート結果は参考として見る方がよいのではないかと考える。施設評価結果に基づいた今後の見直しの方向性について主に議論を進め、その際に市民はどう感じているかを確認するためアンケートを参考にするというような取り扱いをすべきと考える。(副座長)

【評価結果のまとめと見直しの方向付けについて】

◎舞鶴市民会館との複合施設である西公民館は非常に利用率が高いと感じている。市民会館については、耐震性の問題があり、早期の移転や建替えの検討が必要であると考えますが、西公民館の利用者を含め、多くの市民に関わる話なので、早期に検討を進めていただきたい。(委員)

◎勤労者福祉センターの移転等は、早期に結論を出す必要があると考える。(委員)

◎西市民プラザは、1時間単位で施設利用できるなど利用しやすい施設であると思うが、利用状況が悪い。駐車場が無いことが利用状況を悪くしている原因ではないか。(委員)

◎文化施設(文化ホール)の再生計画における方向性について、記載されている内容に異論はないが、舞鶴市民会館の移転等について検討する際には、西舞鶴の城下町という特性を十分考慮すべきである。(委員)

◎図書館施設における光熱水費の削減については、早期に取り組むべきではないか。(委員)

◎郷土資料館は展示スペースが狭い。移転等を検討する際には、展示スペースについても検討が必要である。(委員)

◎図書館施設の再生計画における方向性について、施設群としての方向性では、市民の意見として東西に2つある図書館を1つにして充実させるなどの意見があるとしながら、各施設としての方向性では、東西での施設をそれぞれ存続させると記載されており、統一されていない。個人的な意見としては、図書館は減らすべきではないと考えているので、施設群としての方向性も、東西に存続させる方向で記載すべきであると考えます。(委員)

◎集会施設として、公民館等とコミュニティセンターがあるが、それらを2つの群を一体的に考えて統合等を検討していくべきであると考えます。(委員)

◎現状の施設の利用状況のみで統廃合等を検討するのではなく、今後の利用方法等も踏まえて検討していく必要があると考えます。例えば西市民プラザは、現状では

利用状況があまり良くないが、大型クルーズ船が入港してきた際、外国人観光客等へのおもてなしの拠点となっている。今後も多くの大型クルーズ船が入港してくることが予想される中で、おもてなし、観光の拠点として、活用していくべき施設ではないかと思う。(委員)

◎個別の施設の統廃合等を検討する際には、個別の状況等を考慮すべきということはあるが、建物状況と利用状況を2軸として検討する今回の手法は妥当であると考え。(副座長)

◎予算が限られている中で、施設を統廃合していくことは自然なことである。ただし、各施設には使命があり、その使命を考慮した上で、公共施設再生基本計画も検討を進めるべきであると考え。(委員)

【その他】

◎公共施設の利用促進を図る際には、施設用途に応じた立地、交通上の利便性(駐車場、公共交通機関等)が重要ではないか考える。例えば、子育て関連の事業を実施している西市民プラザに駐車場がないことや、高齢者が利用する施設である文庫山学園が山の上にあることは、施設の利用促進にとってマイナスの効果を及ぼしていると考え。(委員)

◎東舞鶴、西舞鶴、加佐地域という3つの地域が合わさり、現在の舞鶴市がある。それぞれの公共施設は、それぞれ様々な経緯があって建設されてきた。再配置を検討する際には、地域住民の意見をよく聞いて、取組を進めていただきたい。(委員)

◎資料は、よくまとめられていると感じている。(委員)

◎総論賛成各論反対ということがすべての分野でありうると思う。見直しの方向付けについてはよくまとまっていると思うが、個別の施設を廃止する話になるとさまざまな意見が出てくると思うので、十分留意しながらすすめていただきたい。(委員)

○公共施設の使用料について、全体的に見直しをする必要があるのではないかと。(委員)

⇒市民アンケートの中でも、必要なら使用料の負担増もやむを得ないという意見が現状のまま維持すべきという意見を上回っている。市としても今後見直すことが必要であるという問題意識をもっている。今後の検討課題としたい。

(事務局)

◎東西に同様の施設があるから統合するというようなことではなく、それぞれの内容をよく精査して検討をすすめていくべきと考え。(委員)